

しがたい資料展示コーナー企画展

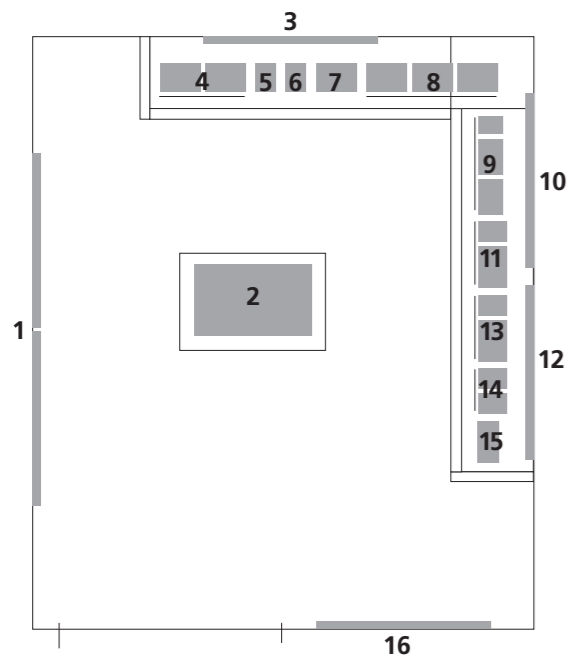
グラフィック デザインのかたち

世ノ一善生の仕事

2019.7.1[月] - 9.20[金] | 10.1[火] - 12.25[水]

9:00 - 17:00 | 土・日・祝日は休館 | 入場無料

滋賀大学彦根キャンパス 総合研究棟(土魂商才館)1階



1 | Life is a single stroke

ポスター / 2018

多様な生き物達は個別の存在ではなく、ひと繋がり存在であることを一筆書きの技法で表現しました。一筆書きで描かれた多くの動物達は、図と地が反転する陰陽の関係になっています。この関係は、ある生き物の死が別の生き物の生になる関係にも見えてきます。

自主制作作品

第12回 世界ポスタートリエンナーレトヤマ 2018 入選

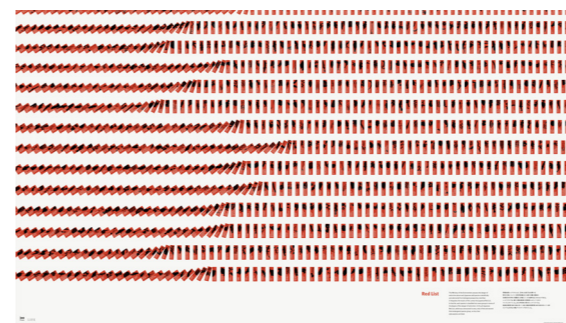


2 | 彦根論叢

エディトリアルデザイン / フォーマットデザイン / 2010-

彦根論叢は、滋賀大学 経済学会の研究成果をまとめた季刊冊子です。このような、基本的には文字が組まれただけの冊子の一体何処にデザインの入り込む余地があるのかと思われるかも知れません。しかし、冊子の大きさ、紙の選定はもとより、本文書体の種類やサイズ・字間・行間・行長・一行の字数・天地左右の余白の量、本文と見出しの造形的差別化といった膨大な選択の先にも、美しく読みやすい冊子は立ち現れます。

依頼・発行
滋賀大学 経済学会



3 | Red List

ポスター / 2015

絶滅危惧種の生き物が置かれた状況を、ドミノ倒しになぞらえてみました。作品構想時には意図していませんでしたが、完成品を眺めていると、膨大なドミノが墓標のようにも見えることを発見しました。

自主制作作品

第11回 世界ポスタートリエンナーレトヤマ 2015 入選

アートディレクション

世ノ一善生

デザイン

世ノ一善生 + 鈴木わか穂



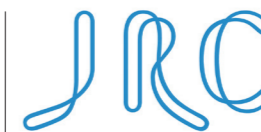
多賀さとの宿 一圓屋敷

4 | 一圓屋敷

ビジュアルアイデンティティデザイン / 2019

一圓屋敷は滋賀県犬上町多賀町に立つ、江戸時代に建てられた屋敷をリノベーションした宿泊施設です。今年6月にオープンしました。シンボルマークは、一圓屋敷を象徴している円の中に、屋敷から見える青龍山を配した造形です。第10代一圓壺太夫が、一圓屋敷を「対山軒」と名付けた逸話を形にしました。今回の展示ではプレゼンテーション段階の候補作も展示しています。

依頼
滋賀大学 社会連携研究センター



5 | 滋賀大学 産業共同研究センター

ビジュアルアイデンティティデザイン / 2008

しなやかで柔軟な組織が、軽やかな動作で新しい形や価値を生み出してゆく様子をイメージしてロゴマークをデザインしました。

依頼
滋賀大学 産業共同研究センター



6 | 滋賀大学 社会連携研究センター

ビジュアルアイデンティティデザイン / 2014

周辺の曲線的で不定形な寒色系の形態は、大学、自治体、経済団体等の組織を表しています。社会連携研究センターがこれらの組織の魅力をマネージメントして、新しい価値を生み出す様子をイメージしたシンボルマークです。

依頼
滋賀大学 社会連携研究センター

日本タイポグラフィ年鑑 2015 入選



7 | ゴムサン フォント

フォントデザイン / 2016

公募コンペ出品用に作成したオリジナルフォントです。輪ゴムがクネクネと身をよじらせて文字を構成している様子をイメージしました。

アートディレクション
世ノ一善生
デザイン
世ノ一善生 + 鈴木わか穂



特定非営利活動法人[NPO]
図書館の学校

8 | NPO 図書館の学校

ビジュアルアイデンティティデザイン／2010

NPO 図書館の学校は、地域の図書館やその活用に関する情報を発信するNPOです。シンボルマークは図書館の書架に並ぶ本をモチーフにしています。本の大きさをリズムカルに変化させることにより、本の列に生き生きとした表情を持たせています。基本パターンは5冊の本で構成されていますが、これは広大な書架空間の一部を切り取って見せている状態です。したがって、このマークは状況によって広大な展開パターンを見せることもあります。

依頼
NPO 図書館の学校



9 | あうる

エディトリアルデザイン／2008-2012

「あうる」誌はNPO 図書館の学校が発行する図書館情報誌です。表紙は「図書館を使った調べる学習コンクール」入賞者の方々に毎回登場していただき、普段から活用されている図書館で撮影を行いました。

依頼
NPO 図書館の学校

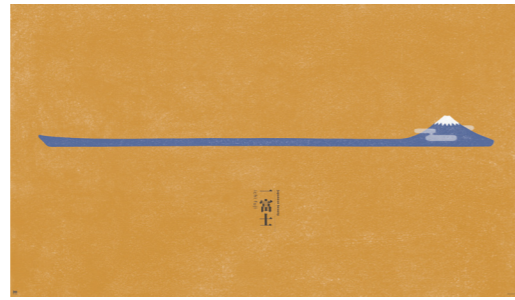
表紙アートディレクション／写真
森公一

表紙デザイン／本文アートディレクション
世ノ一善生

構成・文
山田万知代

本文デザイン
世ノ一善生＋鈴木わか穂

イラストレーション
すずぎあい



10 | 一富士

ポスター／2018

デザインの世界では、明朝体の終筆部分の三角形をウロコと言います。わたしは常々、この様式化されたウロコの造形に特有の美を感じていました。そして、これまた私が強く惹かれる富士山の形とウロコの形が似ていることに気づきました。その素朴な発想をそのまま形にした作品です。

自主制作作品

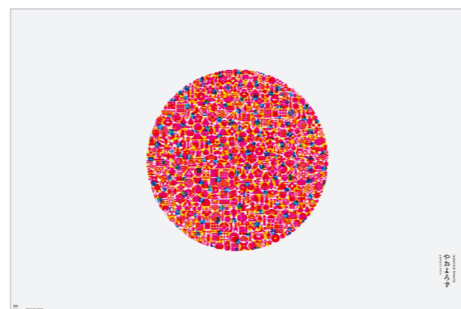


11 | SEA

エディトリアルデザイン／2014-

SEAは、わたしの所属する美術教育コース学生の卒業研究報告冊子です。冊子名はShiga、Education、Artの頭文字を組み合わせた文字列です。表紙写真や本文中のイメージ写真は、Shiga=自然、Education=模擬授業風景など、Art=偶発的な造形というように、冊子名の各要素を表す写真になっています。

依頼
滋賀大学教育学部 美術教育講座



12 | やおよろず

ポスター／2018

日本の文化が生んだモノや美しい自然をモチーフにしたピクトグラムを多数作り、日の丸を構成してみました。各ピクトグラムを原色で印刷して、並置混色の効果により日の丸の色を表現してみました。なかなかイメージ通りの色にはなってくれませんでした。

自主制作作品

アートディレクション
世ノ一善生

ピクトグラムデザイン
鈴木わか穂



13 | 君へ

エディトリアルデザイン／2009-

「君へ」は滋賀大学教育学部の広報冊子です。進学希望者へ、教師という仕事と各教科を学ぶことの魅力を伝える内容になっています。表紙撮影では、講義室窓からの半逆光が学生達を照らす凛とした一瞬を写し取りました。

依頼
滋賀大学教育学部



14 | 滋賀大学 社会連携研究センター報

表紙デザイン／2013-

大学、自治体、経済団体等の組織が協働して相乗効果を生み、新しい価値を生み出してゆく様を、そのまま静物写真で表してみました。自然物、人工物といった全く立ち位置の異なるオブジェが連携して、社会連携研究センターの略称RCCSの頭文字「R」を構成する様を毎回写真に収めています。

依頼・発行
滋賀大学 社会連携研究センター



15 | 知識を湛える。知恵を育む。

新聞広告／2009

滋賀大学が広く社会へ語りかけるようなシーンを想定した新聞広告です。

依頼
滋賀大学

掲載
朝日新聞 朝刊 2009年6月6日



16 | balance

ポスター／2009

多様な生き物が互いにバランスを取って生態系を構築している様子を、モビール状のオブジェになぞらえて表現しました。作品構想当初に意図してはいませんでした。生き物を配置する段階になると、ついついそれらの関係性に着目してしまうのが人間の性。と言う訳で、ブレーメンの音楽隊、桃太郎のお供などが現れてしまいました。

自主制作作品

第9回 世界ポストスタートリエンナーレトヤマ 2009 入選

アートディレクション
世ノ一善生

デザイン
世ノ一善生＋鈴木わか穂